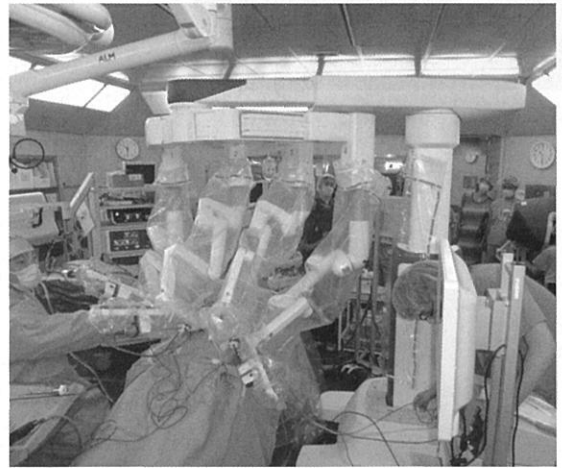


# ダ・ヴィンチ初運用

## 手術支援ロボット 70代女性胃切除



手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ Xi」を使った初めての手術

総合南東北病院では初めてとなる手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ Xi」を使った手術が7月4日(水)、院内で行われました。

ダ・ヴィンチ Xi は体への負担が少ない低侵襲手術を目的に米国で開発された医療ロボット。3D画像を見ながら機械を操作する「サージョンコンソール」、4本のアームが精密な動きをする「ペイシエントカート」、手術中の画像を映し出す「ビジョンカート」の3つの機器で構成。患者の腹部数か所に穴を開けて3Dカメラを挿入、執刀医は

サージョンコンソールで画像を見ながらアームを遠隔操作し手術します。

同病院では昨年12月に導入しました。県中・県南地域では初めてで、南東北グループとしては新百合ヶ丘総合病院に次いで2番目。外科の高野祥直医師(現副院長)をリーダーに泌尿器科、外科、呼吸器外科の医師10人、看護師、臨床工学技士ら約10人が実践に向けてトレーニングを重ねてきました。

この日、手術を受けたのは胃がんの70代女性。執刀医は本多通孝医師(外科)で、藁谷暢医師(外科)が助手を務め、静岡がんセンター胃外科部長の寺島雅典医師が指導にあたりました。高野副院長が見守る中、患者の脇にペイシエントカートが横付けされ、本多医師がサージョンコンソールに座り機械を操作。約6時間に及ぶ胃の切除手術は無事終わりました。

「ダ・ヴィンチ Xi」での手術は、保険適用範囲が泌尿器に加えて4月から胃や肺にも拡大したことから、今後需要がさらに高まるとみられます。

### いろいろの健康

生きていくなかで、誰でも悩みや心配事を抱え不安になり、眠れなくなることはよくあることだと思いません。不安になることはごく普通の心の反応です。科学が進歩し、現在では脳のどの部位でどのような物質の濃度に変化すれば、不安という感情が引き起こされるかがある程度わかっています。しかし残念ながら、そのような不安を起こす脳内物質に直接ピンポイントで効く薬はまだ開発されて

### いろいろな不安

おらず、昔からの抗不安薬しか利用することができません。抗不安薬は便利な薬ですが、眠気、ふらつきなどの副作用に気をつけ、精神的に依存しないようダラダラと服薬を続けることは

控えないものです。抗不安薬は不安やイライラを抑えてくれますが、抗不安薬が効かない不安が存在します。まず挙げられるのは、ポピュラーになっているパニック発作です。突然、息苦しさや動機とともに

強い不安が襲ってくる病気で、手足のふるえや発汗もみられ、「このまま倒れて死んでしまうのではない」と不安になります。パニック発作自体は30分から1時間程度でおさまりますが、「いつまたパニック発作が襲ってくるかわからない」との不安は持続し、ひどくなると電車やバスに乗れず、外出にも不安を覚えるようになります。

他には、特定のことに対する不安に限定されず、何でもかんでも不安になり、いつも不安で落ち着かない状態になる全般性不安障害という病気が

があります。また、不安とは若干異なりますが、恐怖心、不安・緊張感が生命を脅かすほど強いトラウマの体験や目撃から引き起こされる PTSD という病気もあります。大震災で家族が目の前で津波に飲み込まれる場面を目撃するというトラウマから、PTSD になった方が多くいらっしゃいます。以上のような不安、恐怖には抗不安薬ではなく抗うつ薬が有効となります。このような症状で困っている場合には、遠慮なく精神科に相談してください。(総合南東北病院 精神神経センター長・渡邊義文)

### 8月医学健康講座

総合南東北病院の8月医学健康講座は8月17日(金)午後2時から同病院北棟1階 NABEホールで開かれます。同病院リハビリテーション科の舟見敬成主任(理学療法士)が「血管内を掃除する?運動療法のすすめ」と題して講演します。入場は無料です。送迎バスは郡山駅午後1時発、南東北医療クリニック前午後3時30分発をご利用ください。問い合わせは(一財)脳神経疾患研究所 法人本部広報担当 電話024(934)5708へ。